

「超高速ネットワークを利用したアジア遠隔医療プロジェクト」TEMDEC (Telemedicine Development Center of Asia)活動報告：第7巻

清水, 周次
九州大学病院

中島, 直樹
九州大学病院

<https://doi.org/10.15017/19698>

出版情報：「超高速ネットワークを利用したアジア遠隔医療プロジェクト」 TEMDEC活動報告. 7, 2011-03. TEMDEC事務局
バージョン：
権利関係：

11. おわりに

国際医療ツーリズムについて

シンガポール、インド、タイ、韓国など多くの国際医療ツーリズム先進国が知られている。これらの国々は10年以上前から、様々な国家的取り組みを行ってきた。また、その多くは、医療提供者のみならず国民全体の英語能力が高く、国際医療ツーリズムの展開には有利であった。そして実際にそれぞれが既に成功の域に達している。

2010年度に日本政府が発表した「新成長戦略」に「医療の国際化」が明記されたことは、瞠目すべきであるが、その目玉が国際医療ツーリズムである。そこには、観光大国を自認しながらも円高に悩む日本の観光産業の苦悩も表れているが、他国に比して誇るべき医療技術が日本には有るという自信と、保守的・閉鎖的な医療分野を産業側から活性化しよう、という改革の機運が存在している。これらの心意気は否定するべきでないと思いつつも、やや安易な展開ではないだろうか、と危惧もしている。そこで、2003年から医療の国際化を目指して遠隔医療の活動を続けてきたものとして、国際医療ツーリズムの方向性について検証してみたい。

1. そもそも「医療の国際化」と「医療ツーリズム」は、同一なのか？

国際医療ツーリズムとは、外国に居住している外国人を医療サービス目的で日本に招き入れることを指している。一方、我々はこれに加えて、(1) 外国に居住・あるいは旅行する日本人、および(2) 日本に居住・あるいは旅行する外国人に対する医療サービス供給体制も非常に重要だと考えてきた。つまり、医療の国際化の対象はもっと広いと考えるべきであり、その枠の中で医療ツーリズムを考えることが必要である。しかも医療ツーリズムは既に先進国があり競争は激烈であるが、(1)(2)は日本にしか出来ない話である。

2. 日本の医療は外国に売れるのか？

世界中で行われている国際医療ツーリズムのサービス内容は主として検診である。この分野のレベルは国際的には検査機器の普及などに伴う程度標準化されている。むしろ日本の得意分野は高度先進医療、とりわけ内視鏡手術のような細やかな医療技術である。日本はそのような分野の医療ツーリズムを推進すべきであろう。

3. ビジネスとして落とし穴はないのか？

医療ツーリズムは、既に整備している資産を活用した対応でビジネスになりやすいと思われがちである。しかしながら、十分にコミュニケーションの問題、習慣の違い等を解決しておかなければ、がんなどの疾患の告知の不備による訴訟なども考えられる。さらにインドでは形成外科領域の国際医療ツーリズムが、多剤耐性菌株 NMR-1 の英国などへの波及を助長したと伝えられる。新興感染症や多剤耐性菌保有患者を不注意に飛行機に乗せることのないような事前のチェックがこれからは非常に重要である。

つまりこれからの日本にとっての医療国際化の展開は、医療国際化のサービス対象者をいたずらに外国居住の外国人に限定せず広い視野を持ち、特に高度先進医療分野を広く海外に紹介していくことが肝要で、遠隔医療システムのようなコミュニケーションツールを生かして事前事後の患者情報の収集を充分に行うべきである。

手前味噌になってしまうが、これらは全て従来の本活動の方向性に合致しており、改めて本活動の推進が日本における医療の国際化のために貢献することを確信した次第である。

2011年3月 中島直樹